

Tコラム工法

概要

Tコラム工法は、地盤を掘削しながらセメント系固化材を注入し、独自開発した攪拌装置により固化材と地盤土を効率よく混合・攪拌させ、安定した高品質のコラム（柱状改良体）を築造する工法です。

審査証明取得済み

財団法人 日本建築センター
建設技術審査証明（建築技術）
BCJ-審査証明-219

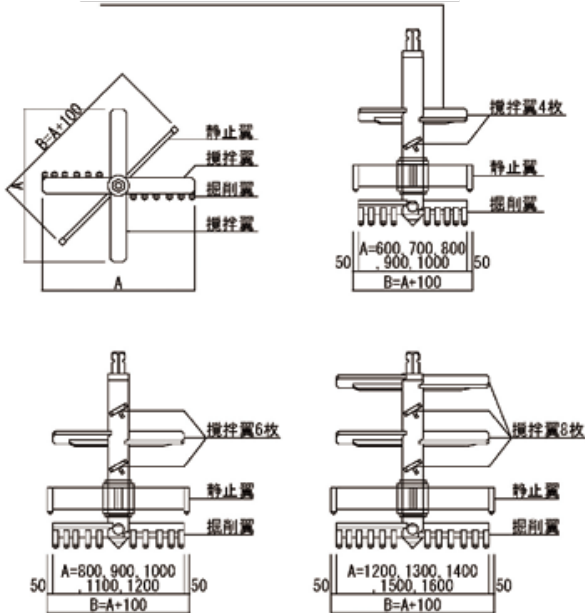


NETIS登録済み

NETIS番号：KT-150083-A
新技術名称：Tコラム工法
登録日：2015年11月13日

特徴

シンプルな板状で角度付攪拌翼とすることで、土塊の付着を減らします。



独自に開発した「共回り防止翼付き地盤改良装置」（特許出願番 013-199298）を使用しています。



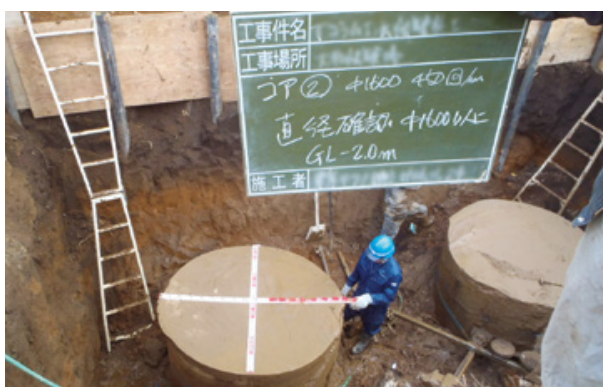
メリット

柔軟な対応力

最大コラム径 1,600mm、最大深度 16m。三点抗打機を使用しなくても、0.7 m³級のベースマシンで最大コラム径まで施工可能です。また、粘性土、砂質土、ロームのあらゆる地盤に対応できるので、様々な道路・近隣状況に対応できます。

適用範囲

コラム径	600,700,800,900,1000,1100,1200,1300,1400,1500,1600mm
最大施工深度	16.0m
適用地盤	粘性土、砂質土、ローム
改良形式	杭形式（杭配置、接門配置、ラップ配置）、ブロック形式、壁形式
適用性	建築物、土木構造物、擁壁及び工作物等の構造物の基礎地盤
搅拌軸数	単軸
搅拌機構	水平翼による一方向搅拌機構
土の共回り防止機構	楔状の先端を有し、軸とする箇所にスリットを設けた静止翼
搅拌翼枚数	φ600～1000mm：4枚、φ800～1200mm：6枚、 φ1200～1600mm：8枚
標準施工速度	貫入 1.0m/分以下、引抜 1.0m/分以下
羽根切り回数	450回/m以上



安定した品質

全自動プラントを使用することで、スラリーの製造過程を管理し、安定した品質を保てます。

全自動プラントはセメントと水を自動計量でき、管理項目をモニターで監視できます。また、施工中はオペレーターがリモコン操作でスラリーの注入開始、停止を行うことができます。

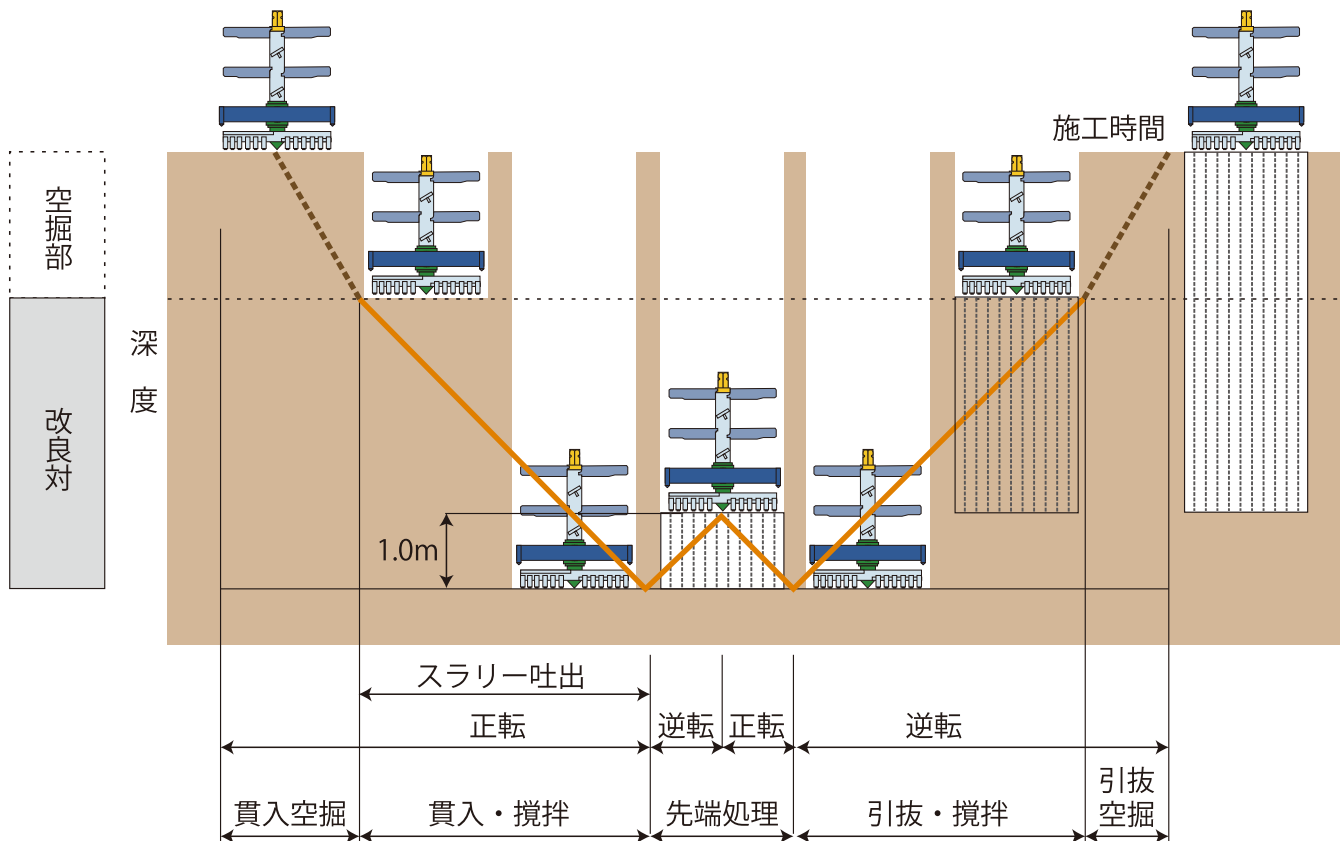


低コスト

小規模建築物等の場合、深度モールドサンプラー採取により、モールドコアが作成可能です。ボーリングコアを採取する必要がなく、工期・経費を低減できます。

深層混合処理（柱状改良）工事

施工方法



地盤調査

事前に必要な地盤調査も自社で行っております。

平板載荷
試験



スウェー
デン式サウン
ディング
試験



ボーリング
試験

